



電車事故？ 一見目を疑う不思議な光景

「タイ」

# メークロンの 線路市場

写真 加藤剛

「市場に行けば、その国が分かる」——そんな言葉の通り、タイは至るところに市場がある。ありふれた市場だけでなく、水上市場、中華街の市場、ナイトマーケットなど。ここでは活気あふれるタイ人の生活がうかがえる。

しかし、これこそタイという市場がある。首都バンコクから鉄道で1時間半ほどの町メークロンの通称「線路市場」。一見、手狭な小道を利用した市場に見える。商品は肉、野菜、果物に雑貨。海に近いため、海産物も並んでいる。何も知らない旅行者がブラブラと店を冷やかしていたとしよう。

「ジリジリジリ」

急にサイレンが鳴り出し、店は商品を手付け出し、店を閉め出す。何が起ったのか分からぬまま、辺りを見回すと、地面に置かれた商品がなくなつた場所に見えるものがある。鉄道のレールだ。そして開けた視界から列車がやって来る。その時、ここが鉄道の上の市場であることに気付く。

線路市場はメークロン駅の線路沿い300メートルほどに形成されている。そもそも、このメークロン線は、のんびりとしたタイらしく、1日4便しか運行されていないので、空いている場所を利用して、空いて自然に市場になつたようだ。

電車が走る時間だけ、せり



普通の道端で見られるタイの朝食風景。  
総菜が充実しているのがタイ風

出し式の陳列台や日よけ傘を外して電車を通し、通過後は何事もなかったかのように、商品を再度並べて営業を続ける。電車が走るスペースギリギリまでせり出した店もあり、ぶつからないかと心配になる光景も見られるが、地元の人たちはさほど気にしていない。

電車は、線路間に積まれたミカンやマンゴーなどの商品の上を通過する。店員は長年の経験で、どれくらいの高さまで積みば大丈夫というのが分かっているようだ。通る前に「大丈夫なの？」と聞いてみると、実際に電車が通過した後、「マイペンライ（問題ない）」とちやめつ



足元にレールがあるという以外はありふれたタイの市場なのだが...



海が近いので乾物も売られている。「どこから来たの？」と店のお母さん



ランの花はタイで人気が高く、タイ航空では女性へのサービスで配られるほど



バンコク名物、朝の大渋滞。比較的速く進むバイクタクシーもこのありさま



電車通過後、再び店開き。日よけはワンタッチ式で組み立ても早い



電車が来ると告げるサイレンが鳴ると、店員たちは素早く撤去作業にかかる



電車が上を通ってもつぶれていない売り物を見せ、「マイベンドライ」と言う店員



線路脇ギリギリまでに積まれた野菜、果物などの商品は、電車にひかれて見えるように見える。大丈夫なの？



メークロン駅。1日4便の運行なので駅の施設も屋根があるだけ



サイレンが鳴った後、1分もしないうちに撤去完了。通り過ぎるのを待つ



2006年9月に開港したバンコクの国際空港（スワンナプーム空港）。総工費の約半分が円借款で賄われた



アフリカ諸国対象の農業分野の第三国研修では、タイ人専門家が技術移転を行う

### JICAの活動 in タイ

## 新たな開発課題、共同支援に向けた経済協力を

1980年代後半から、外国投資を牽引力に急激な発展を遂げたタイ。日本との経済的パートナーシップのもと、さらなる変化の時を迎えている。

1997年のアジア通貨危機の打撃を受けながらも、それを克服し、堅調な経済成長を遂げたタイ。2007年には、1人当たりの国民総所得（GNI）が3,400ドルに達した。

そんな同国に対し、JICAは援助重点分野を「中進国」への移行を念頭に設定。①持続的成長のための競争力強化（産業振興基盤整備）、②社会の成熟化に伴う問題への対応（環境管理体制支援、高齢化対策、社会的弱者支援）、③第三国に対する共同支援（南南協力）を3本柱として、多面的な支援を展開している。

中でも、産業振興基盤整備、環境管理体制支援に重点を置く。円借款の支援により、首都バンコクにある2つの国際空港、チャオプラヤ川架橋（13

カ所）、首都圏高速道路などを建設。現在、タイ政府が実施中の「バンコク大量輸送網整備計画」でも、すでに運行している地下鉄ブルーラインに加えて、今後パープルラインの新設工事を行うことになっている。産業・環境分野の人材育成を目的とした協力も長年にわたって続けてきた。

また、近年の社会的変化に応じて、高齢化対策や社会的弱者支援など新たな課題にも注力する。高齢者に対するサービス改善、人身取引被害者を含む社会的弱者を支援するため、支援体制の枠組みづくりと能力強化を開始している。

さらに、タイの経済的、社会的発展に伴い、同国とのパートナーシップを強化しながら、ほかの開発途上国に対

する共同支援を進めているのも特徴だ。対象は、主にメコン地域の近隣国やアフリカ諸国で、高等教育、農業、障害者支援など、多岐にわたる分野で広域技術協力プロジェクトや第三国研修※を実施している。

※JICAが資金・技術的な支援を行い、近隣諸国などから研修員を招き、各国の現地事情により適した技術研修を実施する。



コミュニティーで高齢者向け保健医療・福祉サービスの形成を目指す支援も行っている



バンコク最古の寺院、ワット・ポムの礼拝堂には、巨大な黄金の輓轎御仏が横たわる。



国の象徴とされるゾウ。古くから人々の生活に密着し、敬愛されてきた。



首都：バンコク  
面積：51万4,000km<sup>2</sup>（日本の約1.4倍）  
人口：6,283万人（2006年）  
公用語：タイ語  
宗教：仏教95%、イスラム教4%  
1人当たり国民総所得（GNI）：3,400ドル（07年）  
経路：日本から直行便で約7時間  
通貨：タイバーツ（THB）  
1THB=約2.6円（09年1月現在）  
気候：熱帯に位置し、年間を通じて気温は高い。季節は雨期、乾期、暑期の3つに分けられる。南部のマレー半島、北部の山岳地帯、東北部の高原地帯では気候が異なる。

地球ギャラリー vol.05

## Thailand

タイ

Illustration/sugawara maiko



タイ名物の三輪タクシー、トゥクトゥク。地元住民や観光客にも便利な移動手段。



1991年に世界遺産に登録された古都アユタヤ。一年を通して、多くの観光客が世界中から訪れる。



### タイカントリー

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-1 REMAX新大久保3F  
TEL/FAX: 03-3200-7997  
URL: <http://www.thai-country.com/>  
月～土: 11時～15時、17時～翌5時  
日: 17時～24時



東京・新大久保にあるタイカントリーは、日本では珍しいタイ南部の料理が味わえる店。オーナーのメンさんは、6年前から都内でタイ料理レストランを営む。  
「日本人用にアレンジはしていません。タイで食べられている、そのままの辛さが味わえます」  
南部料理はもちろん、伝統料理も多く取りそろえている。メンさんイチオシのプラーパッチャーは、揚げ魚に甘辛いハーブソースを絡めたもの。ごはんが何杯も進みそうなお味。  
スタッフもタイ人なので、タイ語を学びたい人にもオススメの店だ。

### タイ料理

## 南部の激辛魚カレー

「カノムチンナムヤーパックタイ」



日本にあるエスニックレストランの中で比較的に見つけやすいタイ料理。トムヤムクン、タイスキなど、一度は口にしたことのある人も多いに違いない。ただタイ料理といっても、種類や味は地方によつてさまざま。中でも、最も辛いといわれるのが南部の料理だ。  
その代表的な料理の一つが、フィッシュカレー「カノムチンナムヤーパックタイ」。白身魚のペーストで作ったルーを、ごはんではなく、素めんと生野菜（モヤシ、千切りキャベツなど）にかけて食べるのが特徴だ。昔は、村の行事などでよく大鍋で作られていた。今では家庭で食べることは少なくなったが、現地のレストランでは必須のメニューだという。